

テーマ別パスファインダー



「笑うこと」を考える



✦ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

作成日：2016年1月27日
大阪大学 外国学図書館 | 箕面キャンパス |
ラーニングコモンズ るくす | LSチーム

I. イントロダクション

＜ 「笑うこと」を考える とは？

日常生活でもしばしば耳にする「ユーモア」という言葉。何気なく使う言葉ですが、では何をもって「ユーモラスだ」とするのでしょうか？笑いを生み出すユーモアですが、どうして笑うのでしょうか？笑うことにどんな意味があるのでしょうか？こうした疑問は古来様々な哲学者、思想家によって思考されてきました。ユーモア、笑いがどのように機能しているのか。そうした疑問を考える入口になるような書籍をピックアップして紹介します。執筆現在大阪大学図書館にないのでリストから外していますが、森下伸也著『もっと笑うためのユーモア学入門』（2003）新曜社も入門編としてお勧めです。

関係分野：哲学、心理学、社会学、文学 等

II. 笑いの効能

「笑い」についてはポジティブな側面に注目が集まることが多いでしょう。本稿で紹介するのは、笑うことによってどのような「いいこと」があるのか、という観点をもった本です。

＜ クライン, アレン（1997）『笑いの治癒力』片山陽子訳 創元社

「笑い」のもつ癒しの効果について書かれた書籍。多くの例を用いつつ、ユーモアを用いて苦痛を乗り越える方法を説いている。続編として『笑いの治癒力Ⅱ—ユーモアと死と癒し』があり、こちらは特に死や喪失に絞って論が展開されている。【外国図-4 階開架 146||326||[1]】

＜ バーガー, ピーター・L（1999）『癒しとしての笑い』森下伸也訳 新曜社

「滑稽さ」を中心に据え、現実を異化する効果を持ったユーモアを説く。ユーモアのポジティブな面を強調するが、同時にネガティブな面も論じられている。読み物としてもジョークや風刺がちりばめられていて、ユーモアを体現するかのようで面白い。【外国図-4 階開架 361.6||279】

＜ デイビス, クリスティ、安部剛（2003）『エスニックジョーク：自己を嘸い、他者を笑う』講談社

異文化を理解するためのユーモアとして、エスニックジョークを紹介している。他者を戯画化するジョークの効果が見て取れる。【外国図-4 階開架 361.5||762】

III. 「笑うこと」を考える

「笑い」について書かれた本は数多くありますが、その中でも特に注目されることの多いものです。もちろん、これが全てではありませんが、押さえておくべき本として挙げています。難しい！という場合は、イントロダクションで挙げた入門書や、IV. で取り上げている本を先に利用してもよいかもしれません。

＜ フロイト, ジークムント (2008) 『フロイト全集 8—機知:1905年』 中岡成文、太寿堂真、多賀健太郎訳 岩波書店

精神分析学者として有名なフロイトによる「笑い」研究の古典ともいえる本。機知の効果に注目し、ユーモアに相對した時の人間の精神の働きから分析を進める。実際に機知の例を挙げ、その説明を行いながら議論が進むので、実感としての理解に繋げることができる。【外国図-4 階開架 146||467||8】

＜ フロイト, ジークムント (1969) 「ユーモア」『文化・芸術論』 高橋義孝他訳 人文書院

『機知』の後に書かれた論文。ユーモアについて説かれた非常に短い内容の濃い論文。『機知』と合わせて読みたい。【外国図-4 階開架 140||157||3】

＜ ベルクソン, アンリ (2011) 『笑い』 竹内信夫訳 白水社

フロイトの『機知』と並んで「笑い」研究において言及されることの多い著作。喜劇的なものに主眼をおいて論が展開される。「笑い」の要因を「固さ」におき、嘲笑が他者を矯正する機能をもつことを示しており、笑い、特に嘲りが、社会的懲罰であるとして論じられる。【総合図-A 棟 5 階 研究用図書 135||BER||3】

IV. フロイト、ベルクソンを受けて

前項でフロイト、ベルクソンの本を紹介しましたが、その影響は今なお大きいものです。本項ではこの二人に注目した著作を紹介します。上述の著作の理解を助け、深めてくれることもおおいにあるでしょう。

＜ ビリッグ, マイケル (2011) 『笑いと嘲り—ユーモアのダークサイド』 鈴木聡志訳 新曜社

タイトルの通り、ユーモアにおけるポジティブな面だけでは捉えきれない性質、特に嘲りに主眼を置いた議論が展開される。ユーモア研究の歴史をたどりながら進んでおり、議論の流れをたどれるのもよい。特にフロイトとベルクソンについては1章ずつ割かれ詳述されている。【外国図-4 階開架 141.6||54】

＜ ジリボン, ジャン=リュック (2010) 『不気味な笑い—フロイトとベルクソン』 原章二訳 平凡社

ベルクソンの『笑い』とフロイトの『不気味なもの』の読解を中心に、「笑うこと」と「笑わない」ことの照応関係を見る。70頁に満たない本文に対し、30頁を超える訳者の解説が付されており、理解を助けてくれるのもありがたい。【総合図-A 棟 3 階 学習用図書 104||GIR】

＜ コフマン, サラ (1998) 『人はなぜ笑うのか?—フロイトと機知』 港道隆、神山すみ江、中村典子訳 人文書院

フロイトの『機知』に即し、人はなぜ笑うのか?という問いを考察していく。言葉遊びなどの機知の要素を「無意識」の中に見出す。また、フロイトの『機知』におけるフェティシズムにも注目している。

【外国図-4 階開架 141.6||32】

✧ [パスファインダーの凡例]

✧ 図書情報は以下の順に表記しています。(主に論文の参考文献に使われている書式です。)
著者名 (出版年) 『本の名前』 出版社名, 翻訳者名 (あれば)

✧ 説明の最後に、【 】で貸し出し可能な図書館と配架場所、請求記号を記しました。

総合図 → 総合図書館 (豊中キャンパス)

生命図 → 生命科学図書館 (吹田キャンパス)

理工学図 → 理工学図書館 (吹田キャンパス)

人図 → 人間科学研究科図書室 (吹田キャンパス)

外国図 → 外国学図書館 (箕面キャンパス)

外国図-雑誌 → 直近1~2年に出版されたものは3階雑誌コーナー、バックナンバーは1階書庫

電 → 電子ジャーナル、電子ブック

※雑誌、電子ジャーナルは、すべての巻号が利用できるとは限りません。

✧ 検索を容易にするために、ISBN (各図書固有の識別番号) や ISSN (各雑誌固有の識別番号) を記している場合もあります。

✧ 外国学図書館を中心に紹介していますので、記載している場所以外でも貸し出し可能な場合があります。図書館各階にある検索端末で確認するか、カウンター/LS デスクまでお尋ねください。